

## 平成31年度 社会福祉法人白老町社会福祉協議会事業計画書

### 基本方針

我が国は、かつて人類が経験をしたことが無いスピードで超少子高齢化社会に突入しており、単身世帯の急増・認知症の方の増加・社会経済の停滞・社会保障財源の不足など、福祉ニーズは多様化・複雑化してきております。わが町でも昨年度高齢化率が44%を超え、本来地域が持っている自助・共助・互助の機能が発揮しづらい状況になってきております。特に地域福祉の支え手の不足は深刻であり、この問題を解決するためには、これまでの既成概念を打ち破り、「支え手側」・「受け手側」に分かれるのではなく、地域住民がそれぞれに役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティの育成を進めていく必要があります。

こうした中で、地域福祉の推進を使命とする社会福祉協議会の役割は、一段と大きくなってきており、これら福祉ニーズの問題解決のために今年度は、次のことに取り組んでまいります。

- 1 地域福祉の課題解決のためには、全ての住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、公的な福祉サービスと協働して、助け合いながら暮らすことのできる地域社会を実現する必要があります。身近な地域での住民のつながり・支えあいなどが更に重要になっているため、引き続き小地域ネットワーク活動の推進を図ってまいります。

また、白老町と協働しながら地域交流の場となる地域サロン活動の普及を全町的に進めます。

町内の福祉マンパワー育成のため、時間数が少なく受講し易い生活援助従事者研修を新たに実施し、これまでの介護職員初任者研修の実施と合わせて福祉マンパワーの掘り起こしを行ってまいります。

- 2 当会が長年に亘って積み重ねてきた経験や知識を生かし、地域福祉の向上を図るために、今後も在宅福祉サービス並びに介護サービス事業を推進してまいります。介護サービス事業の利用者は近年減少傾向にありますので、本年度はより利用者から選択されるサービスの内容を検討していくと共に、各種広報活動を強化するなどして利用者の増加に努めてまいります。

また、働き手の確保が大きな課題となっていることから、介護職員の処遇改善を検討していくと共に求人活動にも力を入れてまいります。更には運営内容を見直すなど、持続可能な事業展開を検討・推進していきます。

- 3 地域包括ケアシステムにおいて生活支援・介護予防サービスが益々重要な位置を占めるに至っております。これら生活支援・介護予防サービスは、これまで社会福祉協議会が培ってきたボランティアや地域住民との協働が不可欠なことから、白老町が行っている生活支援コーディネーター等と協働してサービスの充実に努めてまいります。また、北海道社会福祉協議会が実施している判断能力が衰えた方の金銭管理を支援する日常生活自立支援事業については、引き続き事業支援を行ってまいります。

4 今年度は、平成32年度から実施する白老町社会福祉協議会地域福祉実践計画の策定年でありますので、町民の方々はもとより、地域住民、ボランティア・福祉関係団体などの声に十分に耳を傾けながら、この計画の策定に取り組んでまいります。なお、白老町でも白老町地域福祉計画の策定年であることから、この二つの計画を策定段階から協働で行い、より内容を充実させた実効性の高い計画を策定いたします。

5 昨年、胆振東部を襲った地震は、いつ大規模な非常災害が自分たちの身に降りかかってもおかしくないという危機感を持たせました。特に災害ボランティアセンターにおける社会福祉協議会の役割は重大であることから、平常時において白老町と災害ボランティアセンターの設立・運営などについて具体的な協議をすすめてまいります。

また、災害時に社会福祉協議会の各種事業が継続・早期復旧できる必要な体制の確立を図ってまいります。

6 社会福祉協議会の自主財源は、人口減少や高齢化、それに伴う経済状況の悪化などにより年々減少しております。しかしながら、益々増大していく地域福祉ニーズに対する社会福祉協議会の役割は大きくなっていくことから、一層の経費削減に努めると共に現在の財源のあり方を再検討し、将来的に安定した財源確保ができる方策を検討してまいります。